



平成 29年 5月 25日

～ムカデにはご注意を～



すいぶん暖かくなり、むしろ汗ばむ陽気な毎日となりました。この時期になるとムカデに咬まれた患者様が来院されます。画像は咬まれて1時間後に来院された患者様のものです。今日はムカデについて述べていきます。まず咬まれた時の対応です。



①43度以上のお湯で5分以上洗い流します(ムカデの毒は43~46度の熱で失活します。逆に冷やすと痛みが増す場合があります)

②患部の毒を口で吸いだしたり、揉んだりしない(ハチの刺すタイプの毒とは異なり、傷をつけて塗るタイプの毒ですので、洗い流すだけで十分です。揉むとより毒が拡がり、口で吸うと当然ですが口の中に毒が拡がります。その後毒を吐いて…と言うのは、毒を口の中で数秒含んで、それを吐き出しているのと同じ行為です。口が腫れてくる可能性がありますよ)

これらが咬まれた時の対応です。その後なるべく早く当院ないし皮膚科を受診してください。中にはアレルギー症状として全身に拡がる場合もあります。局所のうちに対応出来るとこちらも助かります。

実はムカデは「刺す」のではなく「咬む」のです。それは顎肢と呼ばれる「歯」によるものだからです。また顎肢には毒腺はありません。ムカデは



- ① 咬んで(獲物の動きを弱らせる?)
- ② わさわさ動いて表面を傷つける
- ③ 傷をつけた所に酵素毒を塗り付ける

という攻撃の流れです。ですから、①の咬んだだけでは毒が入ってない可能性がありますし(咬むという局所侵襲反応)、逆に咬まれなくても②③でムカデ毒が入ってくる可能性もあります。これらの原因の違いが、ムカデ咬症における症状の違いだと思ってます。

今の若い方は御存じないかもしれません、ムカデ(百足)は古来より七福神の一人の毘沙門天のお使いにて人々に崇められてきました。

ムカデは神様の使いです

・戦国時代では武田信玄、上杉謙信などの武将が、毘沙門天が武神で戦勝の神とされることと合わせて、そのお使いのムカデは一糸乱れず果敢に素早く前に進み、決して後ろへ退かないなどとして、武具甲冑や旗指物にムカデの図を用いていた。

・毘沙門天が古代インドでは宝石の神とされていたことに加えて、百足は足が多いので、おあし(銭)がたくさんついて金運を呼ぶとか、商人や芸人の間では「客足、出足」が増え繁盛する。
・たくさんの足(百足)のうち、たった一足の歩調や歩く方向が違っても前に進むのに支障ができる。困難や問題に向かうには皆が心を一つにして当たるべき。

見かけが怖いだけでなく、人間にも咬みつく事があるムカデですが、ゴキブリやクモを捕食したり、これらの言い伝えのように縁起物とされることから、現代の世の中でもムカデと共に存することが必要かもしれませんね。



みんなで鍋パーティーをしました♪
今回はちょっと辛い鍋で、これから
暑くなる夏もこれでのりきるぞぉ♥
みなさんも体調に気をつけてください。



医院：各務原市那加桜町 2 - 368
自宅：各務原市三井北町 1 - 171

Tel 383 - 6800
Tel 382 - 1437

三和皮フ科HP : <http://miwahifuka.org/>